

H27-B-3 100.00~108.71m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
317	100.00	101.00	密度度が低い割れ目～仲着割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。 (岩級区分欄)CL	-	-	(岩級区分欄)CM	・誤記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCM級となる)	100.00	101.00	100.00~101.00m:密度度が低い割れ目～仲着割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。 (岩級区分欄)CM		
318	100.50	101.45		100.50	101.45			100.50	101.45			
319	101.45	101.78	幅1~2mm/m白色~黄色粘土が脈状に多く分布。	101.45	101.78	幅1~2mm白色~黄色粘土が脈状に多く分布。	・表視の適正化(mm)	101.45	101.78	101.45~101.78m:幅1~2mmの白色~黄色粘土が脈状に多く分布する。		
320	-	-		101.78	102.56	CL 硬さ「C」主体で、割れ目沿いに砂や粘土を挟む。	・下位のCM級と区別するため追記した	101.78	102.56	101.78~102.56m:CL 硬さ「C」主体で、割れ目沿いに砂や粘土を挟む。		
321	101.78	102.56	(割れ目状態欄)IVランク (岩級区分欄)CM	101.78	102.56	(割れ目状態欄)IVランク (岩級区分欄)CL	・割れ目に挟在物を挟むことが多いため割れ目状態のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	101.78	102.56	(割れ目状態欄)IVランク (岩級区分欄)CL		
322	101.78	104.28	CM 上端側の101.78~102.56mまでは硬さ「C」、102.56m以下は硬さ「B」で堅硬である。割れ目挟在物の分布は少ないが上端側硬さ「C」部分では、割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。102.56m以下は硬さ「B」の短柱状~柱状コアには幅1~2mm/mの白色筋状の「仲着割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。割れ目には殆んど挟在物は認められないが、一部で厚さ2~3mm/mで砂状~細片状化部をはさむものもある。	102.56	104.28	CM 硬さ「B」で堅硬である。挟在物を伴う割れ目は少ない。短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状の「仲着割れ目」が多く分布するがハンマーの強打では分離しない。一部で厚さ2~3mm/mで砂状~細片状化部を挟むものもある。	・上記の変更に伴い、CM級の上端深度を変更した ・CM級の上端深度を変更したため、当該区間以外の記載を削除した ・表視の適正化(扱い、挟む、mm) ・文章の適正化	102.56	104.28	102.56~104.28m:CM 硬さ「B」で堅硬である。挟在物を伴う割れ目は少ない。短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状の仲着割れ目が多く分布するが、ハンマーの強打で分離しない。一部で幅2~3mmで砂状~細片状化部を挟むものもある。		
323	103.24	103.48	103.24m、103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を切り(変位量不明)、前者で厚さ2~3mm、後者で2mm程度の砂をはさむ。マンガンも伴う。	103.24	103.48	103.24m、103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を止め、切り(変位量不明)、前者で厚さ2~3mm、後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。 65°の割れ目沿いの砂は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・103.48mの割れ目は、これと横断する低角度の潜在割れ目が見られる。103.24mの割れ目は横断する割れ目が見られないが、103.48mの割れ目と同系統の割れ目であるため、切られたい割れ目は変位によるものではなく、元々の割れ目の分布であると判断して「切り」を「止め」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状態について追記した ・表視の適正化(挟む、mm) ・誤記の修正(「幅」の記載漏れ)	103.24	103.48	103.24m、103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を止め、前者で幅2~3mm、後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。65°の割れ目沿いの砂は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
324	103.94	104.00	風化で淡褐色化し軟質化する。	103.94	104.00	風化で淡褐色化し軟質化する。	・表視の適正化(軟質化)	103.94	104.00	103.94~104.00m:風化で淡褐色化し軟質化する。		
325	104.28	105.88	CH 堅硬で塊状。一部で仲着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密度度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	104.28	105.88	CM 堅硬で塊状。一部で仲着割れ目(白い筋状のもの)が分布するが密度度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。104.28m、104.61m<70°の割れ目が分布し、前者は幅2mmの砂を挟み、マンガンも伴う。	・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・砂の挟在やマンガンに伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	104.28	105.88	104.28~105.88m:CM 堅硬で塊状。一部で白い筋状の仲着割れ目が分布するが、密度度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。104.28m、104.61m<70°の割れ目が分布し、前者は幅2mmの砂を挟み、マンガンも伴う。		
326	104.28	105.88	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	104.28	105.88	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	・周囲と同程度の割れ目傾度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	104.28	105.88	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM		
327	105.16	105.19	割れ目ぞいに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。	105.14	105.14	67°の割れ目沿いに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。	・コアに合わせて深度を変更した ・割れ目の傾斜を追記した ・表視の適正化(扱い、伴う)	105.14	105.14	105.14m:67°の割れ目沿いに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。		
328	105.33	105.52	割れ目ぞいに軽微にマンガン鉱染を受ける。	105.33	105.52	割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染を受ける。	・表視の適正化(扱い)	105.33	105.52	105.33~105.52m:割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。		
329	105.88	108.71	CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目ぞいに風化で褐色化する。仲着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層をはさむが、挟在物のない割れ目が主体。	105.88	108.71	CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。仲着割れ目も多く、そのうち、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが、挟在物のない割れ目が主体。	・表視の適正化(扱い、挟む)	105.88	108.71	105.88~108.71m:CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。仲着割れ目も多く、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。既に開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが、挟在物のない割れ目が主体。		

H27-B-3 106.00~114.41m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
330	-	-	106.00	106.16	106.00m、106.16mに73°の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂をみ、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。	マンガン、砂を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。	106.00	106.16	106.00m、106.16m:73°の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。
331	106.32	106.60	106.32	106.60	潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布。全体が軟質化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。	・仲着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。 ・表現の適正化(mm, 軟質化)	106.32	106.60	106.32~106.60m:潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布し、全体が軟質化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。
332	107.30	-	107.30	-	107.30m以深では径2~3mmの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。	・表現の適正化(mm) ・緑泥石であるため「推定」の記載を削除した	107.30	-	107.30m以深では径2~3mmの緑泥石の暗緑灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。
333	107.60	108.60	107.60	108.60	φ5~10mmと大型のかり長石斑点を多く含む。	・表現の適正化(mm)	107.60	108.60	107.60~108.60m:径5~10mmの大型のかり長石の斑点を多く含む。
334	108.68	108.71	108.68	108.71	割れ目ぞいに細片化する。	・表現の適正化(治い)	108.68	108.71	108.68~108.71m:割れ目ぞいに細片化する。
335	108.71	112.27	108.71	112.27	CH 堅硬・塊状 白い筋状の仲着割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。	・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(治い)	108.71	112.27	108.71~112.27m:CM 堅硬・塊状。白い筋状の仲着割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高い。ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目ぞいはごく薄く風化で褐色化するが劣化はない。
336	108.71	112.27	108.71	112.27	(コアの形状)Ⅲランク (岩級区分)CH	・周囲と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	108.71	112.27	(コアの形状)Ⅳランク (岩級区分)CM
337	110.30	110.95	110.11	110.95	50~60°とこれに直交~斜交する10~30°割れ目や仲着割れ目が多い。仲着割れ目は密着度が高い。前者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。	・コアに合わせて上端深度を変更した ・傾記の修正(前者⇒前者) ・低角度の仲着割れ目は50~60°の割れ目を横断しているため、その旨を追記し、「切っている」を「止めている」に変更した ・割れ目及び周辺の状況について追記した	110.11	110.95	110.11~110.95m:50~60°とこれに直交~斜交する10~30°の割れ目や仲着割れ目が多い。仲着割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目が前者の割れ目を横断している。50~60°の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
338	111.14	111.14	111.14	111.14	76°割れ目に厚さ1~2mmの緑泥石粘土~シルトをはさむ。 φ0.1mmの微小なセリサイトも点在する。	・表現の適正化(挟む, mm)	111.14	111.14	111.14m:76°の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微小なセリサイトも点在する。
339	111.31	111.34	111.31	111.34	割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。	・表現の適正化(治い)	111.31	111.34	111.31~111.34m:割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。
340	112.00	112.27	112.00	112.27	70~80°とこれに直交する20~30°の仲着割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。	・表現の適正化(mm)	112.00	112.27	112.00~112.27m:70~80°とこれに直交する20~30°の仲着割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。
341	112.27	113.27	112.27	113.27	CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。仲着割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。 割れ目には挟在物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が厚さ1mm程度砂状~シルト状を呈する。	・表現の適正化(やや) ・傾記の修正(挟在物⇒挟在物)	112.27	113.27	112.27~113.27m:CM 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやや多くなる。仲着割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を呈する。
342	113.27	114.41	113.27	114.41	CH 堅硬 塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体、仲着割れ目も同傾向で密着度が高い。	・下記の変更に伴い、CHの下端深度を変更した ・表現の適正化(傾向⇒系統)	113.27	114.41	113.27~114.41m:CH 堅硬 塊状。割れ目は少ないが、70~80°の高角度系が主体。仲着割れ目も同系統で密着度が高い。

H27-B-3 114.24~117.39m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
343	114.24	114.24	80° 中庸割れ目ぞいに径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。	114.24	114.24	80° 中庸割れ目ぞいに径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。	・表観の適正化(治い, mm)	114.24	114.24	114.24m:80° の中庸割れ目ぞいに径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。
344	114.40	-	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。	114.40	-	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。	・表観の適正化(軟質化、伴う)	114.40	-	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。
345	114.68	115.12	CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.69~115.12m間は上端厚さ5mm/m、下端30mmで砂状化~片状化する。	114.41	115.12	CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.69~115.12m間は上端厚さ5mm、下端幅30mmで砂状化~片状化する。	・下記の変更に伴い、CM級の上端深度を変更した ・表観の適正化(mm) ・掘削の修正(「幅」の記載漏れ)	114.41	115.12	114.41~115.12m:CM 70~80° の割れ目が多く、114.69~115.12m間は上端幅5mm、下端幅30mmで砂状化~片状化する。
346	114.41	114.68	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	114.41	114.68	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	・上位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	114.41	114.68	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM
347	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Bランク	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した。	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Cランク
348	-	-	-	115.00	115.12	破砕部 H ₁ (最新活動面115.00m) 上端80°、下端80°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に淡黄色粘土を糊目状に伴う粘土混じり膠状物を呈する。岩片には定向配列が見られる場合がある。やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい橙色を呈する。幅30mm。	・粒子や細片状の塊の定向配列が認められることから破砕部として認定した。 ・破砕部に関する情報を記載した。	115.00	115.12	●115.00~115.12m:破砕部 粘土混じり塊状部(H) 上端80°、下端80°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に淡黄色粘土を伴う。岩片には定向配列が見られる場合がある。にぶい橙色を呈する。幅30mm。
349	-	-	-	115.00	115.12	(破砕区分欄)H ₁	・上記の記載に合わせて破砕区分を追記した。	115.00	115.12	(破砕区分)H ₁
350	115.00	115.12	(岩級区分欄)CL	115.00	115.12	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	115.00	115.12	(岩級区分欄)CMIに含める
351	115.00	115.12	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク	115.00	115.12	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	・周囲と比べて割れ目が多く、コアは軟質であるためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した。	115.00	115.12	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク
352	115.12	115.12	80° 割れ目の面に厚1mm程度の緑泥石粘土がはさまれる。上盤側厚さ約30mm/mは片状化している。	115.12	115.12	80° 割れ目の面に厚1mm程度の緑泥石粘土がはさまれる。上盤側厚さ約30mm/mは片状化している。	・115.00~115.12mの破砕部の記事に含めた。	-	-	-
353	115.12	116.80	CH 堅硬、密着度の高い中庸割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	115.12	116.80	CM 堅硬、密着度の高い中庸割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	・下記の変更に伴い、岩級を変更した。	115.12	116.80	115.12~116.80m:CM 堅硬で、密着度の高い中庸割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
354	115.12	116.80	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	115.12	116.80	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	・下位と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	115.12	116.80	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM
355	115.90	116.10	115.90~116.10m間では径5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。	115.90	116.10	115.90~116.10m間では径5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。	・表観の適正化(mm)	115.90	116.10	115.90~116.10m:径5mm前後の橙色のカリ長石が多く分布する。
356	116.33	116.33	116.33mで70~80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。後者は前者で切られる(変位量10mm右ズレ)。両割れ目の一部に厚1mm、交差部で5mm程度の緑泥石砂状~シルト(粘土)をはさんでいる。	116.33	116.33	116.33mで70~80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。後者は前者で止められる。切られる(変位量10mm右ズレ)。両割れ目の一部に幅1mm、交差部で幅5mmの緑泥石砂状~シルト(粘土)を挟んでいる。70~80°の割れ目ぞいの細粒部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	・116.29m付近に高角度割れ目を横断する65°程度の潜在割れ目が見られるため「切られる」を「止められる」に変更し、変位量についての記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・表観の適正化(厚⇒幅、挟む, mm) ・掘削の修正(「幅」の記載漏れ)	116.33	116.33	116.33m:70~80°で湾曲する割れ目と40°の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。両割れ目の一部に幅1mm、交差部で幅5mmの緑泥石砂状~シルト~粘土を挟む。70~80°の割れ目ぞいの細粒部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。
357	116.80	117.32	CM 一部に硬さ「C」が混ざるが硬ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、中庸割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟持物は分布しない。	116.80	117.32	CM 一部に硬さ「C」を含むが硬ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、中庸割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟持物は分布しない。	・掘削の修正(挟持物⇒挟在物) ・表観の適正化(混ざる⇒含む)	116.80	117.32	116.80~117.32m:CM 一部に硬さ「C」を含むが硬ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、中庸割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟持物は分布しない。
358	117.32	117.39	CL 75° 割れ目ぞいに厚さ20~25mm/mが風化で軟質化する。	117.32	117.39	CL 75° 割れ目ぞいに厚さ20~25mm/mが風化で軟質化する。	・表観の適正化(治い, mm、軟質化)	117.32	117.39	117.32~117.39m:CL 75° の割れ目ぞいに幅20~25mmが風化で軟質化する。

H27-B-3 117.32~120.10m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
359	117.32	117.39	(岩級区分欄) CL	117.32	117.39	(岩級区分欄) CM	117.32	117.39	(岩級区分欄) CMに含める	
360	117.39	118.47	CH 堅硬。一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状の中庸割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。	117.39	118.47	CM 堅硬。一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状の中庸割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟在物は分布しない。	117.39	118.47	117.39~118.47m: CH 堅硬。一部で割れ目が多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。白色筋状の中庸割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟在物は分布しない。	
361	117.39	118.47	(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH	117.39	118.47	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	117.39	118.47	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	
362	117.65	118.40	橙色のかり長石が多く、全体にぶい橙色の色調を呈する。	-	-	-	117.65	118.40	117.65~118.40m: 橙色のかり長石が多く、全体にぶい橙色を呈する。	
363	-	-	-	118.20	118.46	118.20m・75°、118.46m・76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。	118.20	118.46	118.20m・75°、118.46m・76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。	
364	118.47	119.00	CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。	-	-	-	118.47	119.00	118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。	
365	119.00	119.11	CL 風化と変質が進み全体が軟質化する。	119.00	119.11	CL 風化と変質が進み全体が軟質化する。	119.00	119.11	119.00~119.11m: CL 風化と変質が進み、全体が軟質化する。	
366	119.11	119.25	破砕帯(主せん断面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯	119.11	119.25	破砕帯(最新活動面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯	119.11	119.25	●119.11~119.25m: 破砕帯 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色。幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟み「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。	
367	119.11	119.16	Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10mm角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色。幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟み「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰色(10G4/1)。厚さ30mm/m	119.11	119.16	Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10mm角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色。幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟み「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰色(10G4/1)。厚さ30mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	119.11	119.25	●119.11~119.25m: 破砕帯 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色。幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。ぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。	
368	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm石英をわずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)。厚さ7~10mm/m	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm石英をわずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)。厚さ7~10mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	119.11	119.25	●119.11~119.25m: 破砕帯 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色。幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。ぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。	
369	119.18	119.25	Hj 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5mmに細片化。岩片間の一部は幅1mmの暗緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G4/1)。厚さ40mm/m	119.18	119.25	Hj 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5mmに細片化。岩片間の一部は幅1mmの暗緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G4/1)。厚さ40mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	119.11	119.25	●119.11~119.25m: 破砕帯 119.11~119.16m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色。幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。ぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。	
370	119.11	119.25	(岩級区分欄) D	119.11	119.25	(岩級区分欄) CL	119.11	119.25	(岩級区分欄) CLに含める	
371	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mmの緑灰色-緑泥石粘土脈を挟む。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	119.25	120.10	119.25~120.10m: CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化が進む。	

H27-B-3 120.09~129.91m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)				
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度					
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容					
372	120.09	120.10	60° 厚さ10~15mm緑泥石化で軟質化している。	120.09	120.10	60° 厚さ10~15mm緑泥石化で軟質化している。	・表現の適正化(mm, 軟質化) ・原ではないため緑泥石化に変更した	120.09	120.10	120.09~120.10m:60°で幅10~15mmの緑泥石化で軟質化する。	
373	120.10	125.90	CH 堅硬、塊状。割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	120.10	125.90	CH 堅硬、塊状。割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	・表現の適正化(「緑泥」)	120.10	125.90	120.10~125.90m:CH 堅硬、塊状。割れ目に挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。	
374	121.60	121.60	仰着割れ目が開口割れ目化している。	-	-	-		121.60	121.60	121.60m:仰着割れ目が開口割れ目化する。	
375	122.36	122.36	65° 割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。	-	-	-		122.36	122.36	122.36m:65°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	
376	122.61	122.61	60° 割れ目厚2m/mmの褐色砂は挟む。	122.61	122.61	60° 割れ目に幅2mmの褐色砂挟む。	・表現の適正化(厚⇒幅, 挟む, mm)	122.61	122.61	122.61m:60°の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。	
377	-	-	-	123.35	125.06	80~90°の割れ目が連続する。	・高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	123.35	125.06	123.35~125.06m:80~90°の割れ目が連続する。	
378	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	・表現の適正化(扱い, 伴う)	123.63	123.67	123.63~123.67m:割れ目ぞいに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	
379	125.00	-	125.00m以深では仰着割れ目は殆んど分布しない。	-	-	-		125.00	-	125.00m以深は仰着割れ目は殆んど分布しない。	
380	125.90	128.05	CM 堅硬であるが仰着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目は挟在物は含まず、ほぼ未風化で新鮮。ほぼ全区間に亘り60~90°の仰着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	125.90	128.05	CM 堅硬であるが仰着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目は挟在物は含まず、ほぼ未風化で新鮮。ほぼ全区間にわたり、60~90°の仰着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	・表現の適正化(挟む, 扱い, ほぼ, わたり)	125.90	128.05	125.90~128.05m:CM 堅硬であるが、仰着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟在物は含まず、ほぼ未風化で新鮮である。ほぼ全区間にわたり、60~90°の仰着割れ目ぞいに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。	
381	127.15	127.58	80~90°の開口化した仰着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	127.15	127.58	80~90°の開口化した仰着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布。全幅約50mmにわたり片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	・表現の適正化(mm, 伴う, わたり)	127.15	127.58	127.15~127.58m:80~90°の開口化した仰着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布する。全幅約50mmにわたり片状化するが、砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	
382	128.05	128.78	CH 堅硬。128.05~129.00mに仰着割れ目が開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	128.05	128.78	CM 堅硬。128.05~129.00mに仰着割れ目が開口割れ目化した80~90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	・下記の変更に伴い、岩級を変更した	128.05	128.78	128.05~128.78m:CM 堅硬。128.05~129.00mに仰着割れ目が開口割れ目化した80~90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。	
383	128.05	128.78	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	128.05	128.78	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	・周囲と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	128.05	128.78	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	
384	128.78	128.78	33° 割れ目に砂、φ2~3mm細片化岩片を厚さ1~4m/mは挟む。	128.78	128.78	33° 割れ目に砂、φ2~3mm細片化岩片を厚さ1~4mm挟む。	・表現の適正化(挟む, mm)	128.78	128.78	128.78m:33°の割れ目に砂や径2~3mmの細片化岩片を幅1~4mmで挟む。	
385	128.78	129.47	CM 白い筋状の仰着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-		128.78	129.47	128.78~129.47m:CM 白い筋状の仰着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	
386	129.47	129.84	CL 密着度の低い仰着割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	129.47	129.84	CL 密着度の低い割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	・仰着割れ目は認められず、割れ目が認められたため適正化した	129.47	129.84	129.47~129.84m:CL 密着度の低い割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	
387	129.84	129.91	(岩級区分欄)D	129.84	129.91	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	129.84	129.91	(岩級区分欄)CLに含める	

H27-B-3 129.84~136.33m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
388	129.84	129.91	破砕帯(主せん断面129.84m)	129.84	129.91	破砕部(最新活動面129.84m)			・用信の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一		
389	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/石英粒。φ2~3m/岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10GS/1)。厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って断続的。φ1~3mm石英粒。φ2~3mm岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10GS/1)。厚さ2~5mm。一方、上端には厚さ0.5mmの暗緑灰色の軟質フィルム状粘土が挟在。連続性・直線性が高い。	129.84	129.91	・表現の統一(ガウジ→Hc-2)に含んで表現 ・表現の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ) ・コアに合わせて幅2~5mmの粘土の連続性を変更した ・上端に挟在するフィルム状粘土の色調、硬軟、連続性・直線性について追記した	●129.84~129.91m:破砕部 129.84~129.85m:粘土状部(Hc-2) 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒。径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2~5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.85~129.91m:粘土質岩片状部(Hc) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他の層に比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
390	129.85	129.91	H 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他の層に比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m	129.85	129.91	H 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他の層に比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色をおびた灰白色(7.5Y7/1)厚さ25~35mm 軟質。下位の硬岩部との境界が漸移的直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	129.84	129.91	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm、帯びる) ・粘土量を他の層と比較したわけではないため削除した ・表記の修正(「色」の記載漏れ)		
391	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Bランク	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Cランク	129.91	130.57	・コアはやや硬質であるためコアの硬さをCランクに変更した	(コアの硬さ欄)Cランク	
392	129.91	130.57	CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体である。割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体である。割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	・表現の適正化(扱い) ・文章の適正化(を示す⇒である)	129.91~130.57m:CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目やゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。	
393	130.57	131.27	CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	・コアに合わせて下端深度を変更した	130.57~131.51m:CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	
394	130.75	130.90	幅0.5~5m/m白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	幅0.5~5mm白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	・表現の適正化(mm)	130.75~130.90m:幅0.5~5mmの白色方解石が脈状に分布する。	
395	131.27	132.41	CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の地質学的変質を受けるが軟質化~粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の地質学的変質を受けるが軟質化~粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	・コアに合わせて上端深度を変更した ・表現の適正化(ほぼ、mm、軟質化) ・緑泥石は産物であるため「地質学的」は記載しないこととした	131.51~132.41m:CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。全体が緑泥石化の変質を受けるが、軟質化~粘土化など劣化はない。	
396	131.27	131.51	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	131.27	131.51	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	131.27	131.51	・上位と同程度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	
397	132.41	134.33	CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30mm前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目挟在物は分布しない。	132.41	134.33	CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低い潜在割れ目が多くφ30mm前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目挟在物は分布しない。	132.41	134.33	・表現の適正化(ほぼ、mm) ・ゆ着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した	132.41~134.33m:CM 岩片は堅硬であるが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多く、径30mm前後に分離・細片化する部分もある。ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目挟在物は分布しない。	
398	133.00	133.60	133.00~133.60m間はゆ着割れ目ぞいでφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土は含まない。	132.76	133.60	132.76~133.60m間はゆ着割れ目ぞいでφ30mm前後に分離し易いが砂や粘土は含まない。	132.76	133.60	・コアに合わせて径30mm前後に岩片化している上端深度に変更した ・表現の適正化(扱い、挟む、mm)	132.76~133.60m:ゆ着割れ目ぞいで径30mm前後に分離し易いが、砂や粘土は含まない。	
399	133.39	133.85	φ2~3mm暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化(明オリーブ灰色)する。区間全体が緑泥石化している。	133.39	133.85	φ2~3mm暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化(明オリーブ灰色)する。区間全体が緑泥石化している。	133.39	133.85	・表現の適正化(mm) ・表記の修正(「色」の記載漏れ)	133.39~133.85m:径2~3mmの暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化し、明オリーブ灰色を呈する。区間全体が緑泥石化する。	
400	134.35	134.35	70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m/暗緑色粘土とその上層に厚さ15m/mのφ5~10m/岩片をはさむ。	134.35	134.35	70~80°で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上層に厚さ15mmのφ5~10mm岩片を挟む。	134.35	134.35	・表現の適正化(挟む、mm) ・上層側が必ずしも上層とは限らないため上層に変更した ・文章の適正化	134.35m:70~80°で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上層に幅15mmの径5~10mmの岩片を挟む。	
401	134.33	139.66	CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	134.33	136.33	CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	134.33	136.33	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	134.33~136.33m:CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	

H27-B-3 134.33~142.76m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
402	134.33	136.33	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	134.33	136.33	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	134.33	136.33	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	-
403	134.56	134.70	134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリブ灰)する。	134.56	134.70	134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリブ灰)する。	134.56	134.70	134.56~134.70m: 緑泥石化により淡緑色化し、オリブ灰色を呈する。	-
404	134.85	-	134.85m以深では所々に10mm前後で橙色の長石が晶出する。	134.85	-	134.85m以深では所々に10mm前後で橙色のオリブ長石が晶出する。	134.85	-	134.85m以深は所々に10mm前後で橙色のオリブ長石が晶出する。	-
405	135.76	135.76	80° 割れ目は鏡頭も交差する割れ目の一部を切っている(a)と評価される。	135.76	135.76	80° 割れ目は鏡頭も交差する割れ目の一部を止めている。切っている(a)と評価される。80°の割れ目に鏡頭部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	135.76	135.76	135.76m: 80°の割れ目は交差する割れ目の一部を止めている。80°の割れ目に鏡頭部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
406	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2mmの緑泥石付着。後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2mmの緑泥石付着。後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2mmの緑泥石付着。後者は石英脈が密着して分布する。粘土化や砂状化は伴わない。	-
407	137.52	137.62	晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。	137.52	137.62	ベグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のオリブ長石、緑泥石などが晶出している。	137.52	137.62	137.52~137.62m: ベグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のオリブ長石、緑泥石などが晶出する。	-
408	138.35	138.50	中着割れ目ぞいに開口割れ目化している。	138.35	138.50	中着割れ目ぞいに開口割れ目化している。	138.35	138.50	138.35m、138.50m: 中着割れ目ぞいに開口割れ目化する。	-
409	139.02	139.21	緑泥石化で緑灰色化する。	-	-	-	139.02	139.21	139.02~139.21m: 緑泥石により緑灰色化する。	-
410	139.37	139.37	70°厚さ2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mmと微細な黄鉄鉱も点在する。	139.37	139.37	70°厚さ2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mmと微細な黄鉄鉱も点在する。	139.37	139.37	139.37m: 70°で幅2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布する。径0.1mmの微細な黄鉄鉱も点在する。	-
411	139.66	139.96	CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。	139.66	139.96	CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。	139.66	139.96	139.66~139.96m: CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。	-
412	139.66	139.96	(岩級区分欄)CH	139.66	139.96	(岩級区分欄)CH	139.66	139.96	(岩級区分欄)CHに含める	-
413	139.96	140.39	CH	-	-	-	139.96	140.39	139.96~140.39m: CH	-
414	139.96	140.00	(コアの形状欄)IVランク	139.96	140.00	(コアの形状欄)IVランク	139.96	140.00	(コアの形状欄)IVランク	-
415	140.13	140.13	65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。	140.13	140.13	65° 割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。	140.13	140.13	140.13m: 65°の割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。	-
416	140.39	140.61	CM 70° 割れ目ぞいの一部が片状化する。砂や粘土は挟まれない。	140.39	140.61	CM 70° 割れ目ぞいの一部が片状化する。砂や粘土は挟まれない。	140.39	140.61	140.39~140.61m: CM 70°の割れ目ぞいの一部が片状化する。砂や粘土は挟まれない。	-
417	140.39	140.61	(岩級区分欄)CH	140.39	140.61	(岩級区分欄)CH	140.39	140.61	(岩級区分欄)CHに含める	-
418	140.61	141.97	CH 堅硬・塊状 一部で中着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-	140.61	141.97	140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状、一部で中着割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-
419	141.40	142.00	φ20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	φ20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	141.40~142.00m: 径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	-
420	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	-	-	-	色調欄から読み取れるため記載しない
421	141.97	147.08	CM やや割れ目が多いが岩片は堅硬。白色の筋状を呈する中着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	CM やや割れ目が多いが岩片は堅硬。白色の筋状を呈する中着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	141.97~147.08m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状の中着割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。	-
422	142.32	142.43	割れ目が交差し約20~50mm程度に岩片化しているが砂や粘土は挟まれない。	142.32	142.43	50°程度の割れ目が交差し約20~50mm程度に岩片化しているが砂や粘土は挟まれない。	142.32	142.43	142.32~142.43m: 50°程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟まれない。	-
423	142.70	142.76	緑泥石化で淡緑灰色を呈する。	-	-	-	142.70	142.76	142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。	-

H27-B-3 143.48~153.85m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
424	143.48	144.50	φ3~5mmの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部は中着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。中着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。	143.48	144.50	φ3~5mmの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部は中着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。中着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。	143.48	144.50	143.48~144.80m:径3~5mmの橙色のかり長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。	-
425	143.80	144.00	割れ目間隔20~70m/mで45°の中着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	割れ目間隔20~70m/mで45°の中着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	143.80~144.00m:割れ目間隔20~70m/mで45°の中着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	-
426	144.81	144.68	40~55°の中着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	144.08	145.44	40~60°の中着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	144.08	145.44	144.08~145.44m:40~60°の中着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	-
427	145.37	145.37	50°割れ目ぞいに厚さ15m/mでφ2~10mm/mに細片化するが岩片は硬質。砂や粘土は挟まない。	145.37	145.37	50°割れ目ぞいに厚さ15mmでφ2~10mmに細片化するが岩片は硬質。砂や粘土は挟まない。	145.37	145.37	145.37m:50°割れ目ぞいに幅15mmで径2~10mmに細片化する。岩片は硬質である。砂や粘土は挟まない。	-
428	-	-	-	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達している。	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達する。	-
429	145.88	145.88	70°の中着割れ目ぞいに幅約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。	145.88	145.88	70°の中着割れ目ぞいに厚さ約10mmで緑泥石化し緑灰色を呈する。	145.88	145.88	145.88m:70°の中着割れ目ぞいに幅約10mmで緑泥石化し緑灰色を呈する。	-
430	146.56	147.08	60~70°の中着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	146.56	147.08	60~70°の中着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	146.56	147.08	146.56~147.08m:60~70°の中着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	-
431	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどが中着割れ目が開口したもの。残留している中着割れ目は周囲と同化し密着度が強くハンマーの打撃でも分離しない。各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどが中着割れ目が開口したもの。残留している中着割れ目は周囲と同化し密着度が強くハンマーの打撃でも分離しない。各割れ目面にはほぼ挟在物は分布せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	147.08~150.59m:CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどが中着割れ目が開口したものである。残留する中着割れ目は周囲と同化し、密着度が高く、ハンマーの打撃でも分離しない。各割れ目面には挟在物は殆んど分布せず、未風化で新鮮である。	-
432	148.78	148.78	65°割れ目面に厚さ1mm緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。	148.78	148.78	65°割れ目面に厚さ1mm緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。	148.78	148.78	148.78m:65°の割れ目面に幅1mmの緑泥石の硬質な粘土がフィルム状に付着する。	-
433	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。	149.20	149.36	149.20~149.36m:割れ目がやや多いが、劣化は伴わない。	-
434	150.04	150.59	50~60°・幅0.5mm以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	50~60°・幅0.5mm以下主体の緑泥石細脈が多く分布。大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	150.04~150.59m:50~60°で幅0.5mm以下の緑泥石細脈が多く分布する。大半は周囲と同化し、開口割れ目化していない。	-
435	150.41	150.41	緑泥石脈中に厚さ10mmの石英をレンズ状に伴っている。	150.41	150.41	石英脈中に厚さ10mmの白色岩片を塊状に伴っている。	150.41	150.41	150.41m:石英脈中に幅10mmの白色岩片を塊状に伴う。	-
436	150.59	151.57	CM 20~40°と70~80°割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	CM 20~40°と70~80°割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	150.59~151.57m:CM 20~40°と70~80°の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。	-
437	151.21	151.21	85°割れ目の一部で厚さ2mmのφ2mm細片化部はさむ。	151.21	151.21	85°割れ目の一部で厚さ2mmのφ2mm細片化部はさむ。	151.21	151.21	151.21m:85°の割れ目の一部に幅2mmで径2mmの細片化部を挟む。	-
438	151.50	151.52	石英と暗褐色鉱物が共生して分布。	151.50	151.52	石英脈中に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。	151.50	151.52	151.50~151.52m:石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。	-
439	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目や中着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、中着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。一部は開口化している。粘土や砂は挟まない。	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目や中着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、中着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。一部は開口化している。粘土や砂は挟まない。	151.57	152.23	151.57~152.23m:CH 堅硬・塊状。割れ目や中着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、中着割れ目の大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。	-
440	151.47	151.52	緑泥石化と珪化が進み硬化している。	-	-	-	151.47	151.52	151.47~151.52m:緑泥石化と珪化が進み硬化する。	-
441	152.23	153.85	B 堅硬・塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。割れ目や中着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	CH 堅硬・塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。割れ目や中着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	152.23~153.85m:CH 堅硬・塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目や中着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質である。	-

H27-B-3 152.23~158.54m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	
		記事 (変更箇所を書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を書きで表示) (変更していないものは「」で表示)				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
442	152.23	153.85	(岩級区分)B	152.23	153.85	(岩級区分)CH	
		上下端を厚さ10~20mmの石英脈に囲まれた「プロトカクレーサイト」であるが、角縁と基質は同化し、珪化している。	上下端を厚さ10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。に密着した「プロトカクレーサイト」であるが、岩片と基質は同化し珪化している。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全に付着している。	・崩記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	152.23	153.85	(岩級区分)CH
443	152.50	152.67		152.50	152.67		
		153.20m付近にφ10mmと大型・橙色のかり長石既晶が点在。	153.20m付近にφ10mmと大型・橙色のかり長石既晶が点在。	・表現の適正化(mm)	152.50	152.67	152.50~152.67m:上下端を幅10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同化し、珪化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全に付着する。
444	153.20	153.20		153.20	153.20		
		60~80°と高角白色筋状の付着割れ目が数本分布するが、密着度高く開口化しない。	60~80°の高角白色筋状の付着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。	・表現の適正化(高角⇒高角度)	153.20	153.20	153.20m付近に径10mmの大型の橙色のかり長石の既晶が点在する。
445	153.25	153.60		153.25	153.60		
		CH 堅硬、塊状					
446	153.85	154.60		153.85	154.60		
		緑泥石化が進むが硬質。上端では割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などは含まない。	緑泥石化が進むが硬質。上端では30~70°の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などは含まない。	・割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化(挟む)	153.85	154.60	153.85~154.60m:CH 堅硬、塊状。
447	154.42	154.60		154.42	154.60		
		CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.25m以深で60~90°の高角白色筋状の付着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.25m以深で60~90°の高角白色筋状の付着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	・崩記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる) ・崩記の修正(単位記載漏れ)	154.42	154.60	154.42~154.60m:緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70°の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などは含まない。
448	154.60	156.18		154.60	156.18		
		CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.77m付近に高角度割れ目を横断する割れ目が見られるため「切られている」を「止まっている」に変更し、変位位置についての記載を削除した	CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.77m付近に高角度割れ目を横断する割れ目が見られるため「切られている」を「止まっている」に変更し、変位位置についての記載を削除した	・崩記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	154.60	156.18	154.60~156.18m:CH 堅硬、塊状で割れ目は少ない。155.25m以深で60~90°の高角白色筋状の付着割れ目が多いが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。
449	154.60	156.18		154.60	156.18		
		70~80°割れ目で交差する一部の付着割れ目が切られている(変位不明)。	70~80°割れ目で交差する一部の付着割れ目が止まっている。切れている変位不明。70~80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の適正化(割れ目⇒割離)	154.60	156.18	(岩級区分)CH
450	155.25	155.25		155.25	155.25		
		一部で緑泥石化しφ30mm/mの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。	一部で緑泥石化しφ30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。	・崩記の修正(156.77⇒155.77、156.80⇒155.80) ・表現の適正化(伴う、mm、軟質化)	155.25	155.25	155.25m:70~80°の割れ目で交差する一部の付着割れ目が止まっている。70~80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。
451	156.77	156.80		155.77	155.80		
		白色筋状の付着割れ目の一部がはがれかかっているが、よく密着している。	白色筋状の付着割れ目の一部が剥離しかかっているが、よく密着している。	・表現の適正化(泥じる⇒含む)	156.77	156.80	155.77~155.80m:一部で緑泥石化し径30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。
452	156.00	156.14		156.00	156.14		
		CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混入するが長さ10~20cm(Ⅱ)が主体。割れ目や付着割れ目の一部は緑泥石化がよく密着している。	CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも含むが長さ10~20cm(Ⅱ)が主体。割れ目や付着割れ目の一部は緑泥石化がよく密着している。	・見られる割れ目の傾斜を追記した	156.00	156.14	156.00~156.14m:白色筋状の付着割れ目の一部が剥離しかかっているが、よく密着する。
453	156.18	159.24		156.18	159.24		
		割れ目が交差し一部で片状化するが、挟持物は分布しない。	18~80°の割れ目が交差し一部で片状化するが、挟持物は分布しない。		156.18	159.24	156.18~159.24m:CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも含むが、長さ10~20cm(Ⅱ)が主体。割れ目や付着割れ目の一部は緑泥石化するが、よく密着する。
454	156.50	156.90		156.50	156.90		
		157.00m以深は20~40°割れ目が主体。			157.00	-	156.50~156.90m:18~80°の割れ目が交差し、一部で片状化するが、挟持物は分布しない。
455	157.00	-		-	-		
		わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。			157.35	157.89	157.00m以深は20~40°の割れ目が主体。
456	157.35	157.89		-	-		
		30°程度でφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。	30°程度でφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。	・表現の適正化(mm) ・崩記に分布するため記載を変更した	157.35	157.89	157.35~157.89m:わずかに石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。
457	157.83	157.89		157.83	157.89		
		φ10mm前後の大型なかり長石が点在。	φ10mm前後の大型なかり長石が点在。	・表現の適正化(厚⇒幅、mm) ・石英脈であるため記載を変更した	157.83	157.89	157.83~157.89m:30°程度で径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性に点在する。
458	158.20	158.30		158.20	158.30		
		158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布。よく密着し分離しない。	158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布。よく密着し分離しない。	・表現の適正化(軟質化、伴う)	158.20	158.30	158.20~158.30m:径10mm前後の大型なかり長石が点在する。
459	158.54	158.62		158.54	158.62		
		158.54m以深は石基も含む緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず堅硬である。	158.54m以深は石基も含む緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず堅硬である。		158.54	158.62	158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布する。よく密着し分離しない。
460	158.54	-		158.54	-		

H27-B-3 159.24~165.89m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
461	159.24	160.40 B 堅硬。塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状の中庸割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟持物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残存。全体的には色調がまだら模様を呈する。	159.24	160.40 CH 堅硬。塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状の中庸割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟持物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残存。全体的には色調がまだら模様を呈する。	「削記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	159.24	160.40	159.24~160.40m:CH 堅硬。塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の中庸割れ目を多く含むが、堅硬で密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟持物も分布しない。全体に緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈するが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残存する。全体的に色調がまだら模様を呈する。	
462	159.24	160.40 (岩級区分欄)B	159.24	160.40 (岩級区分欄)CH	「削記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	159.24	160.40	(岩級区分欄)CH	
463	159.45	159.45 60° 割れ目が交差する65° 中庸割れ目を切っている。 (見掛け変位量2mmを左ズレ)	159.45	159.45 60° 割れ目が交差する65° 中庸割れ目を横断している。色切っている。 (見掛け変位量2mmを左ズレ) 60° の割れ目に相対部は見られない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	「中庸割れ目はズレていないため「切っている」を「横断する」に変更し、変位量についての記載を削除した 「割れ目及び周辺の状況について追記した	159.45	159.45	159.45m:60° の割れ目が交差する65° の中庸割れ目を横断する。60° の割れ目に相対部は見られない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
464	160.40	162.57 CH 堅硬。塊状。上下位に比べやや割れ目が多い。割れ目挟持物は分布しない。	160.40	161.45 CM 堅硬。塊状。上下位に比べやや割れ目が多い。割れ目挟持物は分布しない。	「割れ目がやや多い区間の下端深度を変更した 「下削の変更に伴い、岩級を変更した 「表現の適正化(やや)	160.40	161.45	160.40~161.45m:CM 堅硬。塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟持物は分布しない。	
465	160.40	161.45 (コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	160.40	161.45 (コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	「下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した 「上記の変更に伴い、岩級を変更した	160.40	161.45	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	
466	161.10	161.69 φ5mm前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	161.10	161.69 φ5mm前後と大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	「表現の適正化(「J」⇒「mm」)	161.10	161.69	161.10~161.69m:径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	
467	161.70	161.90 割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。	161.70	161.90 60° の割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。	「交差する割れ目の傾斜を追記した 「表現の適正化(挟む)	161.70	161.90	161.70~161.90m:60° の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。	
468	162.12	162.18 φ10mm前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。	162.12	162.18 φ10mm前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。	「表現の適正化(mm)	162.12	162.18	162.12~162.18m:径10mm前後の大型な橙色のカリ長石が点在する。	
469	162.46	162.57 80~90° の中庸割れ目が5~20mm間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	162.46	162.57 80~90° の中庸割れ目が5~20mm間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	「表現の適正化(mm)	162.46	162.57	162.46~162.57m:80~90° の中庸割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	
470	162.57	166.65 B 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の中庸割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 中庸割れ目には石英を断状にはさまものも多い。橙色のカリ長石が濃集する部分も含ま。この部分では色調が橙系(にぶい橙系など)を呈している。 緑泥石化は割れ目や中庸割れ目自体では殆んど分布せずφ2~5mmの斑点状などとして露出している。	161.45	166.65 CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度の中庸割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 中庸割れ目には石英を断状に挟むものも多い。橙色のカリ長石が濃集する部分も含ま。この部分では色調が橙系(にぶい橙系など)を呈している。 緑泥石化は割れ目や中庸割れ目自体では殆んど分布せずφ2~5mmの斑点状などとして露出している。	「割れ目が少なくなる区間の上端深度を変更した 「削記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる) 「中庸割れ目の傾斜を追記した 「表現の適正化(広い、挟む、mm、厚=幅)	161.45	166.65	161.45~166.65m:CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度の中庸割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。中庸割れ目には石英を断状に挟むものも多い。橙色のカリ長石が濃集する部分も含ま。にぶい橙系などの橙系を呈する。緑泥石化は割れ目や中庸割れ目自体では殆んど分布せず、径2~5mmの斑点状に露出する。	
471	162.57	166.65 (岩級区分欄)B	162.57	166.65 (岩級区分欄)CH	「削記の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	162.57	166.65	(岩級区分欄)CH	
472	163.50	163.60 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が露出している。	163.50	163.60 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が露出している。	「表現の適正化(挟む) 「削記の修正(黄鉄鉱⇒黄鉄鉱)	163.50	163.60	163.50~163.60m:高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が露出している。	
473	164.00	164.30 φ10mmと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。	164.00	164.30 φ10mmと大型の橙色のカリ長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。	「表現の適正化(「J」⇒「mm」)	164.00	164.30	164.00~164.30m:径10mmの大型の橙色のカリ長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。	
474	164.50	164.50 φ50mm緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。	164.50	164.50 φ30mmの石英の晶洞。長石などの2次鉱物を伴っている。	「表現の適正化(mm) 「晶洞状に分布するのは石英で、その中に分布する鉱物は長石であるため記載を変更した	164.50	164.50	164.50m:径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。	
475	164.94	164.94 70° 密着割れ目上端側に厚さ20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は劣化はしない。	164.94	164.94 70° 密着割れ目上端側に厚さ20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界に劣化はない。	「表現の適正化(mm) 「上端側に分布するものは石英で、その中に分布する鉱物は長石であるため記載を変更した 「文意の適正化	164.94	164.94	164.94m:70° の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下端境界に劣化はない。	
476	164.95	165.89 橙色のカリ長石の含有量が上下位に比べ多くなり、色調も橙系(にぶい橙系)を呈する。	164.95	165.89 橙色のカリ長石の含有量が上下位に比べ多くなり、色調も橙系(にぶい橙系)を呈する。	「表現の適正化(含有⇒含有量)	164.95	165.89	164.95~165.89m:橙色のカリ長石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい橙系などの橙系を呈する。	

H27-B-3 165.32~171.85m

コア観察カード		記事		記事		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事		上端深度	下端深度		選定した記事内容
上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか?		適正化するべき記事内容						
		<input checked="" type="checkbox"/>		記事 (変更箇所を書きで表示) (変更していないものは「」で表示)						
				記事 (変更箇所を書きで表示) (変更していないものは「」で表示)						
				記事 (変更箇所を書きで表示) (変更していないものは「」で表示)						
477	165.32	165.32	70° 割れ目は165.32mでφ8mmの橙色カリ長石を切断している。 また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け方位±2~5m/±5°)。本割れ目には鏡肌も認められる。	165.32	165.32	70° 割れ目は165.32mでφ8mmの橙色カリ長石を横断切断している。 また交差する割れ目の一部も切っている。切っただけの発射位置±2~5mmを±5°。本割れ目には鏡肌も認められる。 割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩体には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	「切断している」としたカリ長石は、割れ目を踏いで連続しているため「切断している」を「横断している」に、「切っただけの発射位置±2~5mmを±5°」を「切っただけの発射位置±2~5mmを±5°」に変更し、方位角についての記載を削除した。 鏡肌は見られないため削除した。 割れ目及び周辺の状況について追記した。 表現の適正化(mm)	165.32	165.32	165.32m: 70° の割れ目は165.32mでφ8mmの橙色のカリ長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩体には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。
478	165.80	166.10	φ10~20mmの石英が多く晶出している。 一部は他形の結晶量を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	165.80	166.10	φ10~20mmの石英が多く晶出している。 一部は他形の結晶量を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	・表現の適正化(mm)	165.80	166.10	165.80~166.10m: 径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶量を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。
479	166.44	166.47	φ10mm/長径~長20~30mm/幅5mmのレンズ状で石英が晶出。	166.44	166.47	φ10mm/長径~長20~30mm/幅5mmのレンズ状で石英が晶出。	・表現の適正化(mm)	166.44	166.47	166.44~166.47m: 径10mmの斑状~長さ20~30mm/幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。
490	166.65	167.21	CH 一部でやや割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	166.65	167.21	CH 一部でやや高角度割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	・多い割れ目は高角度割れ目であるため追記した。 ・表現の適正化(やや)	166.65	167.21	166.65~167.21m: CH 一部で高角度割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。
481	167.00	-	167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	-	-	-	-	167.00	-	167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。
482	167.21	167.55	CM 白色筋状の仲着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	167.21	168.22	CM 白色筋状の仲着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	・下記の変更に伴い、下端深度を変更した。 ・表現の適正化(やや)	167.21	168.22	167.21~168.22m: CM 白色筋状の仲着割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。
483	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅱランク (岩級区分欄)CH	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM
484	167.55	169.66	CH 堅硬 塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。 白色筋状の仲着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点状する。割れ目や仲着割れ目自体に分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	168.22	169.66	CH 堅硬 塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。 白色筋状の仲着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 全体に緑泥石化し、φ2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点状する。割れ目や仲着割れ目自体に分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。 割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	・上記の変更に伴い、上端深度を変更した。 ・表現の適正化(扱い、mm)	168.22	169.66	168.22~169.66m: CH 堅硬 塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。白色筋状の仲着割れ目も含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、φ2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点状する。割れ目や仲着割れ目自体に分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。
485	168.22	169.66	(コアの形状欄)Ⅱランク	168.22	169.66	(コアの形状欄)Ⅱランク	・割れ目がほとんど分布しないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した。	168.22	169.66	(コアの形状欄)Ⅱランク
486	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟質化は伴わず堅硬。	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。 軟質化は伴わず堅硬。	・表現の適正化(軟質化、伴う)	169.19	169.41	169.19~169.41m: 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。
487	169.50	-	169.50m以深、φ2~3mmの緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.50	-	169.50m以深、φ2~3mmの緑泥石が斑点状に多く晶出。	・表現の適正化(mm)	-	-	-
488	169.66	172.69	B 堅硬 塊状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状の仲着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	169.66	172.69	CH 堅硬 塊状で割れ目が少ない。 一部に白色筋状の仲着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	・脚注の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	169.66	172.69	169.66~172.69m: CH 堅硬 塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状の仲着割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。
489	169.66	172.69	(岩級区分欄)B	169.66	172.69	(岩級区分欄)CH	・脚注の修正(岩級区分要素の組み合わせからCH級となる)	169.66	172.69	(岩級区分欄)CH
490	169.67	170.22	φ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.67	170.22	φ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出。	・表現の適正化(mm、助詞の追加)	169.67	170.22	169.67~170.22m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。
491	170.20	170.65	60~70° の仲着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-	-	170.20	170.65	170.20~170.65m: 60~70° の仲着割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
492	171.00	171.08	φ10mmの大型で橙色のカリ長石が晶出し点状する。	171.00	171.08	φ10mmの大型で橙色のカリ長石が晶出し点状する。	・表現の適正化(mm)	171.00	171.08	171.00~171.08m: 径10mmの大型の橙色のカリ長石が点状する。
493	171.29	171.29	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.29	171.29	35° と87° の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	・交差する割れ目の傾斜を追記した。	171.29	171.29	171.29m: 35° と87° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。
494	171.85	171.85	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.85	171.85	34° と74° の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	・交差する割れ目の傾斜を追記した。	171.85	171.85	171.85m: 34° と74° の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。

H27-B-3 172.32~177.65m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードから正しく転記されているか?)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
495	172.32	172.53	φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mm石英細脈を伴って、斑点状に晶出。点在する。	172.32	172.53	φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mm石英細脈を伴って、斑点状に晶出。点在する。		172.32	172.53	172.32~172.53m: φ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に晶出。点在する。	
496	172.69	174.13	CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアを含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目や仲着割れ目に沿って細脈状~φ1~3mmの斑点状に晶出している。割れ目には砂や粘土は含まれない。細脈部には石英を伴うこともある。	172.69	174.13	CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアを含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し、割れ目や仲着割れ目に沿って細脈状~φ1~3mmの斑点状に晶出している。割れ目には砂や粘土は含まれない。細脈部には石英を伴うこともある。		172.69	174.13	172.69~174.13m: CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアを含むが、10~20cmの柱状コアが主体。一部で緑泥石化し、割れ目や仲着割れ目に沿って細脈状~径1~3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。	
497	173.66	173.73	密着度の低い仲着割れ目10~20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離。細片化するが粘土や砂など挟入物は分布しない。	173.66	173.73	密着度の低い潜在割れ目10~20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離。細片化するが粘土や砂など挟入物は分布しない。		173.66	173.73	173.66~173.73m: 密着度の低い潜在割れ目が10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離。細片化するが、粘土や砂など挟入物は分布しない。	
498	173.93	173.93	43° 割れ目はφ5mmの褐色カカリ長石を横断している。	173.93	173.93	43° 割れ目はφ5mmの褐色カカリ長石を横断する。また、43°の割れ目と交差する2条の高角度の仲着割れ目が見られる。切っ迫している。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。		173.93	173.93	173.93m: 43°の割れ目は径5mmの褐色のカカリ長石を横断する。また、43°の割れ目と交差する2条の高角度の仲着割れ目が見られるため追記した。割れ目及び周辺の状態について追記した。表現の適正化(mm)	
499	174.13	175.55	B 堅硬。塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の仲着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	174.13	175.55	CH 堅硬。塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の仲着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。		174.13	175.55	174.13~175.55m: CH 堅硬。塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に白色筋状の仲着割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	
500	174.13	175.55	(岩級区分欄)B	174.13	175.55	(岩級区分欄)CH		174.13	175.55	(岩級区分欄)CH	
501	175.15	175.22	割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目には挟入物は分布しない。	175.15	175.22	70° 程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目には挟入物は分布しない。		175.15	175.22	175.15~175.22m: 70°程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目には挟入物は分布しない。	
502	175.55	176.50	CH 堅硬。上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。仲着割れ目も密着度が大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。	175.55	176.50	CH 堅硬。上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。仲着割れ目も密着度が大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。		175.55	176.50	175.55~176.50m: CH 堅硬。上下位に比べや割れ目が多いが、コア長10~20cm(Ⅲ)が主体。仲着割れ目も密着度高く、ハンマーの打撃で分離しない。	
503	175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟入物は分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡面も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。	175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟入物は分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡面も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。		175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するが、コアチューブ引上げ時の擾乱による可能性が高い。岩片は堅硬で挟入物に分布しない。面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡面も認められる。赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	
504	175.71	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	176.50	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。		176.50	176.78	176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	
505	176.50	176.78	(岩級区分欄)CM	176.50	176.78	(岩級区分欄)CH		176.50	176.78	(岩級区分欄)CHに含める	
506	175.59	176.62	30° 割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)。砂状~粘土状部は含まれない。	176.59	176.62	30° 割れ目沿いに風化(γ)、軟化(D)。砂状~粘土状部は挟まない。		176.59	176.62	176.59~176.62m: 30°の割れ目沿いに風化(γ)し、軟化(D)する。砂状~粘土状部は挟まない。	
507	176.78	179.15	B 堅硬。塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。一部に含まれる仲着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5mm暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	176.78	179.15	CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。一部に含まれる仲着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5mm暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。		176.78	179.15	176.78~179.15m: CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の棒状コアが主体。一部に含まれる仲着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位に比べ緑泥石化が進み、径2~5mmの暗緑灰色の斑点状~幅0.5mmの細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化しない。	
508	176.78	179.15	(岩級区分欄)B	176.78	179.15	(岩級区分欄)CH		176.78	179.15	(岩級区分欄)CH	
509	177.65	177.65	35° 厚さ2~3mmの石英脈が分布。周囲と同化している。	177.65	177.65	35° 厚さ2~3mmの石英脈が分布。周囲と同化している。		177.65	177.65	177.65m: 35°で幅2~3mmの石英脈が分布する。周囲と同化する。	

H27-B-3 177.83~180.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事	記事	記事		記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	記事	記事
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
510	177.83	178.27	間にはφ5~10mmと大型な橙色のかり長石が晶出・点在する。	177.83	178.27	間にはφ5~10mmと大型な橙色のかり長石が晶出・点在する。	・表現の適正化(mm)	177.83	178.27	177.83~178.27m:径5~10mmの大型な橙色のかり長石が晶出し、点在する。	-
511	178.31	178.39	上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25mm/m、φ5~10mm/mに細片化している。厚さは25mm/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。	178.31	178.39	上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25mm、φ5~10mmに細片化している。厚さは25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。	・表現の適正化(mm)	178.31	178.39	178.31~178.39m:上端75°、下端70°の割れ目に囲まれ幅25mmで径5~10mmに細片化する。幅25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面に緑泥石がフィルム状に付着する。	-
512	178.45	-	178.45m以深には仰着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-		178.45	-	178.45m以深は仰着割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-
513	179.15	180.00	CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 仰着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。	179.15	180.00	CM 179.37~179.68m間の一部は15~67°の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 仰着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。	・下記の変更に伴い、岩級を変更した ・交差する割れ目の傾斜を追記した ・表現の適正化(助詞の追加)	179.15	180.00	179.15~180.00m:CM 179.37~179.68m間の一部は15~67°の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で、面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する。仰着割れ目の多くは開口割れ目化する。	-
514	179.15	180.00	(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH	179.15	180.00	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	・割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	179.15	180.00	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	-

H27-B-4

H27-B-4 0.00~12.63m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度			下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
1	-	-	0.00	13.75	盛土	-地質名に合わせて盛土の区間を通記した-		0.00	13.75	0.00~13.75m:盛土			
2	0.00	0.22	0.00	0.22	礫(礫土) φ5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。	-地質名を通記した -文章の適正化(より成る⇒からなる)-		0.00	0.22	0.00~0.22m:礫 径5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。			
3	0.22	3.10	0.22	3.10	礫混じり砂(礫土) φ2~20mm程度の花崗岩類、アブライト、頁岩などの礫(角礫~亜円礫)を含む。最大径40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。 0.22~1.00m間は比較的隙分に含む。 総じて細く、コアは指圧で容易に凹む。	-地質名を通記した -顆粒の修正(礫⇒粗砂) -表観の適正化(max)		0.22	3.10	0.22~3.10m:礫混じり砂 径2~20mm程度の花崗岩類、アブライト、頁岩などの礫(角礫~亜円礫)を含む。最大径40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。0.22~1.00m間は比較的隙分に含む(隙率5~10%)。全体に細く、コアは指圧で容易に凹む。			
4	3.10	6.30	3.10	6.30	砂質礫(礫土) 隙分が多くなる。礫種は花崗岩類、アブライトの他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる φ10~100mmの角礫~亜角礫が多い 基質は細礫及び粗砂からなる	-地質名を通記した -顆粒の修正(礫⇒粗砂、黒石⇒黒色) -アブライトも花崗岩類のため削除した -基質について追記した		3.10	6.30	3.10~6.30m:砂質礫 隙分が多くなる。礫種は花崗岩類の他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片が混じる。径10~100mmの角礫~亜角礫が多い。基質は細礫及び粗砂からなる。			
5	3.30	3.58	-	-	コンクリート片			3.30	3.58	3.30~3.58m:コンクリート片			
6	3.70	4.00	3.70	4.00	この間基質は流失済み。	-種まじり具合について追記した-		3.70	4.00	3.70~4.00m:基質は流失済み。全体にルーズ。			
7	4.00	8.00	4.00	8.00	花崗岩、花崗岩類、アブライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩を少量含む。角礫~亜角礫が主体で隙率はφ10~50mmが多く max φ80mm 基質は細礫+粗砂	-3.10~6.30mの記事を含めて削除した-		-	-	-			
8	5.73	6.00	-	-	基質はやや流失済み。			5.73	6.00	5.73~6.00m:基質はやや流失済み。			
9	6.30	7.00	6.30	7.00	砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を多く含む。また、少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に比べて、良く締まっている。	-地質名を通記した -隙率を追記した -表観の適正化(極めて、比べて)		6.30	7.00	6.30~7.00m:礫混じり砂 粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含む。極めて少量の径10mm以下の頁岩角礫を含む。上位に比べて良く締まっている。			
10	7.00	7.45	7.00	7.45	Apの巨礫、頁岩の補強部片を含む。	-黒色の塊状のものは、マンガン濃集部であり、頁岩の補強部ではないため削除した-		7.00	7.45	7.00~7.45m:アブライトの巨礫			
11	7.45	7.70	7.45	7.70	塊状の細礫を含む砂(粗砂)	-岩種、礫の形状、隙率について追記した -顆粒の修正(塊状⇒塊状) -文章の構成を修正した				7.45~13.75m:礫混じり砂+砂質礫 径2~70mmの花崗岩類、黒灰色の頁岩の角~亜円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂~細礫からなり、やや締まっている~締まっている。			
12	7.70	8.00	7.70	8.00	砂質礫(礫土) 花崗岩類の角礫の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。	-地質名を通記した -礫の形状について追記した							
13	8.00	8.20	8.00	8.20	礫混じり砂(礫土) 砂(粗砂)が主体となる φ10mm以下の花崗岩類の角礫を含む。φ5mm以下の頁岩の角~亜円礫をごく少量含む。やや締まっている。	-地質名を通記した -含有率について追記した -種まじり具合について追記した		8.00	8.20	8.00~8.20m:砂質礫 砂(粗砂)が主体となる。φ10mm以下の花崗岩類の角礫を含む。φ5mm以下の頁岩の角~亜円礫をごく少量含む。やや締まっている。			
14	8.20	-	8.20	13.75	砂質礫(礫土) 花崗岩類のφ10~50mmの角~亜角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。最大φ70mm 少量の黒灰色の頁岩が散在する。 基質は細礫および粗砂	-下端深度を追記した -地質名を通記した -顆粒の修正(角礫⇒亜角、少量⇒少量) -基質について追記した -表観の適正化(max)		8.20	13.75	8.20~13.75m:砂質礫 径10~50mmの花崗岩類の角~亜角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。最大φ70mm。少量の黒灰色の頁岩が散在する。基質は細礫および粗砂。			
15	10.15	10.15	-	-	幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。			10.15	10.15	10.15m:幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。			
16	11.03	11.52	11.03	11.52	含有率は総じて小さく中礫以下。	-表観の適正化		11.03	11.52	11.03~11.52m:含有率は上下位に比べて小さくなる。			
17	12.05	12.20	-	-	Geの大礫。			12.05	12.20	12.05~12.20m:花崗岩の大礫を含む。			
18	12.04	12.04	12.24	12.24	木片混じる	-顆粒の修正(12.04⇒12.24)		12.24	12.24	12.24m:木片混じる。			
19	12.51	12.63	-	-	幾分炭化した木片混じる			12.51	12.63	12.51~12.63m:幾分炭化した木片混じる。			